酪農を題材とした食育授業を義務教育に！

日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 動物科学科　1年　永澤 咲里

みんな、牛のこと知っていますか？牛乳ってどうやってできるか分かる人いますか？児童を対象とした教育ファーム、答えられる人はほとんどいません。しかし、給食には牛乳が出てきます。牛乳を知らない人もいないはずです。じゃあなぜ答えられないのでしょうか。そこにはきっと農業離れしてしまっている現状があるからだと考えられます。もっとたくさんの人に酪農を、牛を知って欲しい！そのためにも酪農教育ファームを小学校の教育のカリキュラムの1つに組み込んで欲しいと考えます。

私と牛との出会いは農業高校です。牛乳がどうやってできるかをなんとなくしか知らなかった私でした。高校で入った酪農専攻、そこで出会った乳牛たち、担当を持って関わった子牛たちに学んだことは数え切れません。牛についてだけでなく、酪農家の仕事や思いも同時に知りました。酪農家の思い、牛乳がどうやってできているかたくさんの人に知って欲しい！発信したい！という思いから私は、酪農教育ファームプロジェクトに参加しました。

酪農教育ファームプロジェクトでは様々な活動を行います。近隣小学校を招いて酪農体験を行ったり、地域で開催されるイベントに参加したりしました。そこで、あるいくつかの現状と出会いました。基本的に小学生を対象にしている酪農教育ファームですが、ほとんどの子が給食で牛乳を飲んでいるにも関わらず牛乳の生産方法を知っていないという現状です。昔の私も知らなかったように。理由はおそらく単純です。知る機会がないからです。私も小学生の時、牛について、牛乳についての授業を受けた記憶がありません。牛や牛乳についてもっと知る機会が増えれば関心は高まるはずです。

実際に酪農教育ファームプロジェクトで、小学生を対象に酪農体験を受ける前と後のアンケート調査を実施しました。酪農体験では「牛乳のありがたみ・いのちの大切さ」について伝えることを目的に、「乳牛について」の説明や「ふれあい体験」、「哺乳体験」などを実施しました。アンケート調査の結果、「牛についてどう思いますか」という質問において、体験前は「かわいい・怖い」などの外観的特徴を述べた意見が多く見られましたが、体験後のアンケートではかわいい以外にも「すごい・子牛が大切・ありがたい」など、牛・牛乳の知識が日々の食生活と関連付いた意見に変わり、体験での主体的な学びを通した内容に変化しました。このように、食育授業を行えば対象に影響を与えることができることが確認できました。知る機会がない、知らない人が多いならば、知る機会を作ることで影響を与えることができると考えます。酪農教育ファーム、主に酪農を題材とした食育授業を義務教育である小学校、中学校の授業のカリキュラムに組み込むことで多くの方に知ってもらえることになると考えます。

なぜそこまでして単なる食育ではなく酪農教育ファーム（酪農を題材とした食育授業）を行う必要があるのか、３つの理由があると考えます。

1つ目は、“牛が牛乳を生産していること”。生産できるようになるまでの過程には、メスしか牛乳を生産できないことや、子牛を産むまで生産できないことを話すことで、牛乳生産の大変さ、牛乳のありがたみを伝えることでき、幅広い食育になるということ。さらには酪農家の仕事を知ることができます。

２つ目は、農と食の距離が離れている現代、牛、酪農家の話をすることで生産者が存在し、必要であることを発信でき、将来の職業の選択肢に農業が存在することを伝えることができる。また、幼いうちから少しでも農業に興味をもつ人が増えれば、今の農業の深刻な人手不足や高齢化、新規就農人口の低下、後継者不足の解消に少しでも寄与すると考えるからです。

３つ目に、牛乳に対する思いが食育によって変化すれば、牛乳の消費量は増加すると考えるからです。実際に、酪農教育ファームプロジェクトでは、中学生を対象に酪農を題材とした食育授業を実施し、実施前後の給食の残乳調査で、授業前と比べ授業後は減少傾向にあり、授業日は０本という結果になりました。生徒の食に対する意識が一時的ではあるものの高まったことや、牛乳生産に対する理解が深まると、残乳が減少する可能性があることを確認することができました。このように酪農を題材とした食育授業を実施し、牛乳の消費量が増加すれば、牛乳の需要も増え農家に還元されると考えるからです。以上の３つの理由から私は酪農を題材とした食育授業を実施すべきだと考えます。

酪農教育ファームを義務教育化するには、実際に酪農体験を実施できる牧場が少ないことや酪農を題材とした食育授業を行う人材や教材が充実していないという現状が問題に挙げられます。例を挙げると、大阪には２５戸の牧場があるにも関わらず酪農教育ファーム認証牧場に認定されているのは大阪府立農芸高校しかありません。酪農教育ファームを実施するということは容易ではないため行っている牧場は多くはありません。酪農教育ファーム認証牧場や実施していただける農家さんを増やすためには国から支援金を出し、酪農家さんと教育機関が連携していく必要があると考えます。さらには、食育授業を簡単にだれでも行えるようにするための教材を充実させていくべきです。私は、実際の牛舎の様子を撮影し、酪農家の１日や牛乳の生産方法、出産、哺乳の動画のＤＶＤを作成しました。このDVDは使いやすさ等に高い評価をいただき、多くの小中学校で食育授業を行っていただけました。教材を作成することの重要さを理解でき、増やしていくべきだと感じました。

酪農を題材とした食育授業を義務教育に組み込むことで、牛乳の生産方法やありがたさを伝えていき、将来的には就農者や牛乳の消費量が増加していくと考えます。そのためには、酪農教育ファームを実施する牧場には支援を、学校と酪農家は連携を強める必要があります。

さらに、酪農を題材とした食育授業を展開していくには、教材を充実させていく必要があると考えます。酪農のさらなる発展と、食育の充実化を目指し、より良い教育を行っていくために。